

EqMax ver 08082 の X (旧 Twitter) 認証モジュールの更新

EqMax 内蔵ブラウザを使ったアプリ連携が今確率で失敗するようです。理由は不明です。そのため、普段使っているブラウザでアプリ連携の操作をするオプションを追加しました。具体的には、認証に使用するブラウザを「内蔵ブラウザ」、「既定のブラウザ」および「任意のブラウザ」から選択できるようにしました。推奨は「任意のブラウザ」です。ただし、外部ブラウザを使用すると、必要な操作も増えます。

外部ブラウザを使用する手順

(ClientID 等の設定が終了後の段階から)

- ① [認証のためのウェブブラウザ] で「既定のブラウザ」または「任意のブラウザ」を選択
- ② [v2 認証を開始] ボタンをクリック
- ③ 外部ブラウザでの操作: (新規追加)

認証 URL の例

```
https://x.com/i/oauth2/authorize?
response_type=code&client_id=M1M5R3BMVy13QmpScXkzTUt50E46MTpjaQ&redirect_uri=https://
www.example.com&scope=tweet.read%20users.read%20follows.read%20offline.access&state=state&co
de_challenge=challenge&code_challenge_method=plain
```

- 「任意のブラウザ」を選択した場合: ブラウザを起動し、「認証 URL」ボックスの内容をコピーし、ブラウザの URL ボックスに貼り付けて移動する
- 「既定のブラウザ」を選択した場合: ブラウザが自動的に起動され、URL ボックスには自動的に認証 URL がコピーされ、アプリ連携の許可画面が表示される

- ④ 外部ブラウザのアプリ連携の許可画面でアプリ連携に許可を与える。その直後、画面がリダイレクトされ、成功すれば、その URL には"code=..."が含まれている。もし含まれていないと「連携失敗」

Redirected URL の例:

```
https://www.example.com/?
state=state&code=VGNibzFWSWREZm01bjN1N3dicW1NUG1oa2xRRVNNdmVHelJGY2hPWGxNd2dxOjE2MjIxNjA4MjU
4MjU6MT0xOmFjOjE
```

- ⑤ 外部ブラウザの URL ボックスの内容をコピーし、EqMax 側の [リダイレクト URL] に貼り付ける。この段階で、[トークンを取得] ボタンがクリック可能な状態に変化。
ただし、④から⑤の"code=..."を含む URL のコピー・貼り付け／ボタンクリックの一連の手動操作を **30 秒以内** に行う必要がある。
- ⑥ [トークンを取得] ボタンのクリック後、[認証完了] ボタンが Enable 状態に変化すれば OK。

注意事項

- ① 新規に「Scopes」に「meida.write」を含める必要がある。これがないと、画像をアップロードに失敗する。
- ② X の Developer Portal のアプリで設定した redirect URL と、EqMax で設定した redirect URL は正確に一致している必要がある (一般的な例 <https://x.com/home>) 。